

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN

建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2026年(令和8年)9月2日(水曜日)

(第三種郵便物認可)

建築学び事業の幅広げる

社会の変化やニーズを読み取りながら不動産のリユースや建築のリノベーションなどを手掛けるファミリエ(東京都渋谷区)を営む吉田伸明さんは、2025年4月から、働きながらでも学べる近畿大学の通信教育課程「建築学部オンライン学士プログラム」を受講している。「仕事をしながらの学修は大変だが、学士と資格を取得することで土地・物件の選定から設計・建築施工、運用までのフローを垂直統合でき、事業のコスト削減やスピードアップも期待できる。業務内容の幅も広がるだろう」と卒業後の展開を見据えて学びを進めている。



ファミリエ代表取締役社長

吉田 伸明氏

吉田さんが起業したファミリエは不動産業だが、空き家や空き施設が更地になつて、特徴のない建て売り住宅やアパートができていく。光景に疑問を感じ、空き家再生、施設のリノベーションといった状況に陥った。構造や仕上のコンバージョンといった

不動産の活用を軸とする建築再生を中心としている。ある時、職人の手配がうまくいかず、自身がリノベーションの作業を行わざるを得ない状況に陥った。構造や仕上やサポート体制などを含め、

で、自分であれこれ調べたり、知人に聞いたりしながら苦心の末に完成にこぎ着けた。この経験から、以降はリノベーションの施工も手掛けるようになったが、「現状のままで、同じレベルのものしかできない。構造や意匠設計、デザイン、建築環境、材料、計画なども学びたい」と考え、仕事をしながら資格取得を志すようになったという。

オンラインだけで1級建築士受験資格を得られることを前提としてリサーチを進める中、近畿大学が25年度から「建築学部オンライン学士プログラム」を開講することを知り比較検討の結果、学費やサポート体制などを含め、



ファミリエが再生した物件(改修後)



改修前

25年から近大のオンライン学士プログラムを受講

文系出身のため、当初は力学や環境工学など理系に関する部分に不安をもっていたが、「それは答えに向かう手順や考え方を知らなかっただけで、講義を通じてそこを理解できるで、今のところついていけている。オンラインの講義は分かるまで繰り返し見返せるので、それは大きな助けとなっている」という。一方で、製図や模型制作に

自分の環境に最も合う」と判断。大卒者を対象とする3年次編入として入学することを決めた。この3年次編入は2年間で学修できるカリキュラムとなっているが、年間3万田のみで在籍延長できたため、「半年または1年在籍延長する形にして、2年半で卒業する」目標を立てている。1年半が経過し、ここまで計画どおりに学修を進めている。「自営業なので融通は利きやすく、仕事の内容を変えることなどで可能な限り勉強の時間を確保している。学習の習慣化と意思、計画性でこれまで乗り切ってきたが、建築学部はこんなに大変なものと実感している」と感想を語る。

1級建築士を取得できれば、夢も広がる。「現在は空き家を再生してシェアレジデンスを運営しているが、住宅だけでなくオフィスや宿泊施設、コミュニティ施設なども手掛けられる。設計を中心的な業務とすることはないと

思うが、社会的活動に活用できそうな施設は設計してみたい」と思い描く。



吉田さんが初めて製作した模型



資格取得を目指して学修する

は苦戦している。「もちろん基礎的なことは教えてくれるが、制作などの作業は未経験者にとってはとっつきにくい面がある。はじめは手書きでやっていたが限界を感じており、CADの勉強にも着手している」と自身でも試行錯誤を繰り返している。さらに、「ほかの学生や講師の方とのコミュニケーションで得られることもあるのではないかと感じ、対面スクーリングの活用を検討している。